

2026年 知財情報フェアの主要トレンド：AI活用と経営貢献の深化

68.2%

プレゼンテーションの
AI関連比率

出展者プレゼン107枠中73枠がAI、
LLM等のキーワードを含み、AI活用
が標準化。

発明発掘から権利行使まで
一気通貫の支援



対話による
発明の引き出し



特許分析



明細書作成



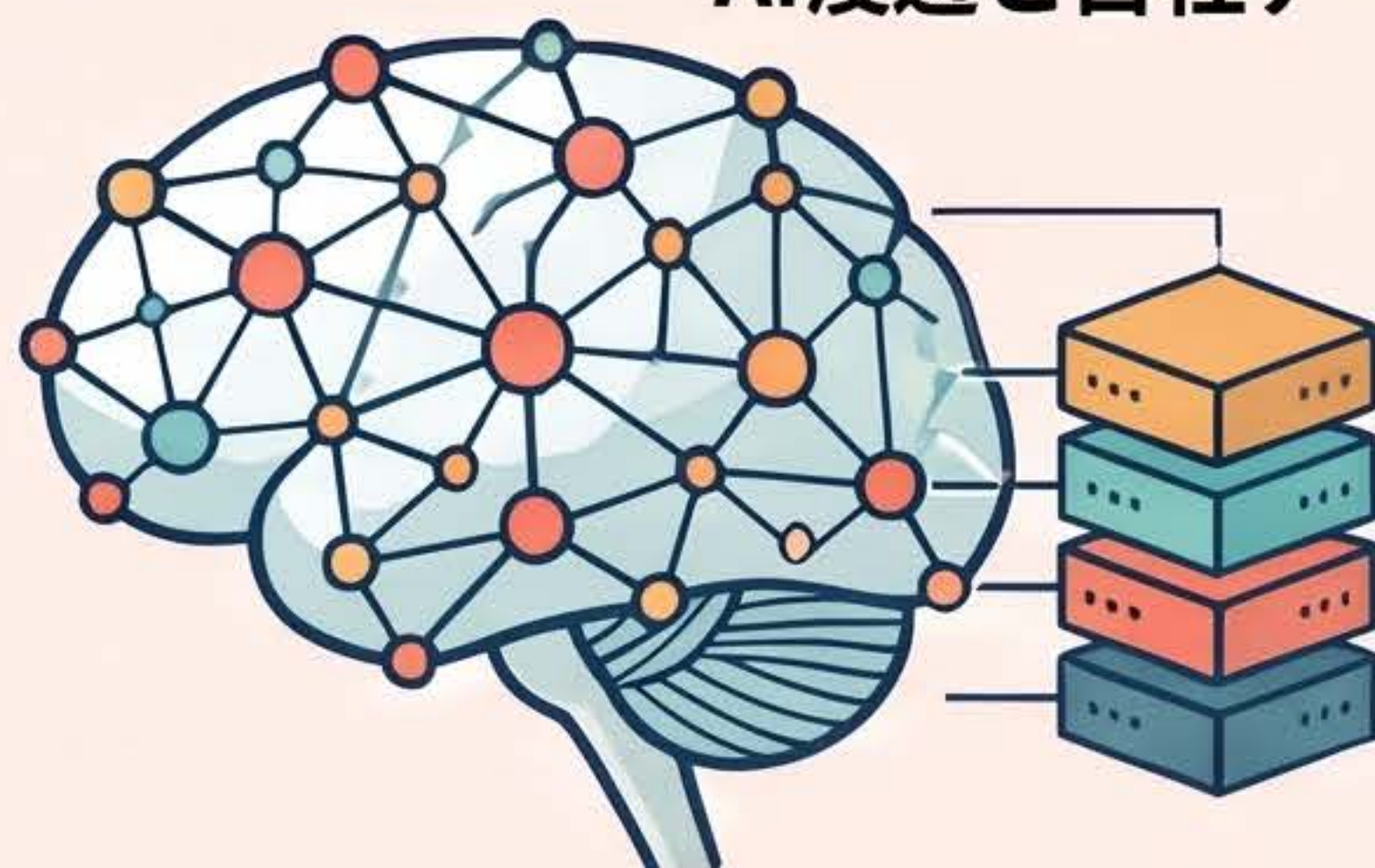
侵害監視

出賃による権利行使まで、
社内のデータな頼道通貫を
変化

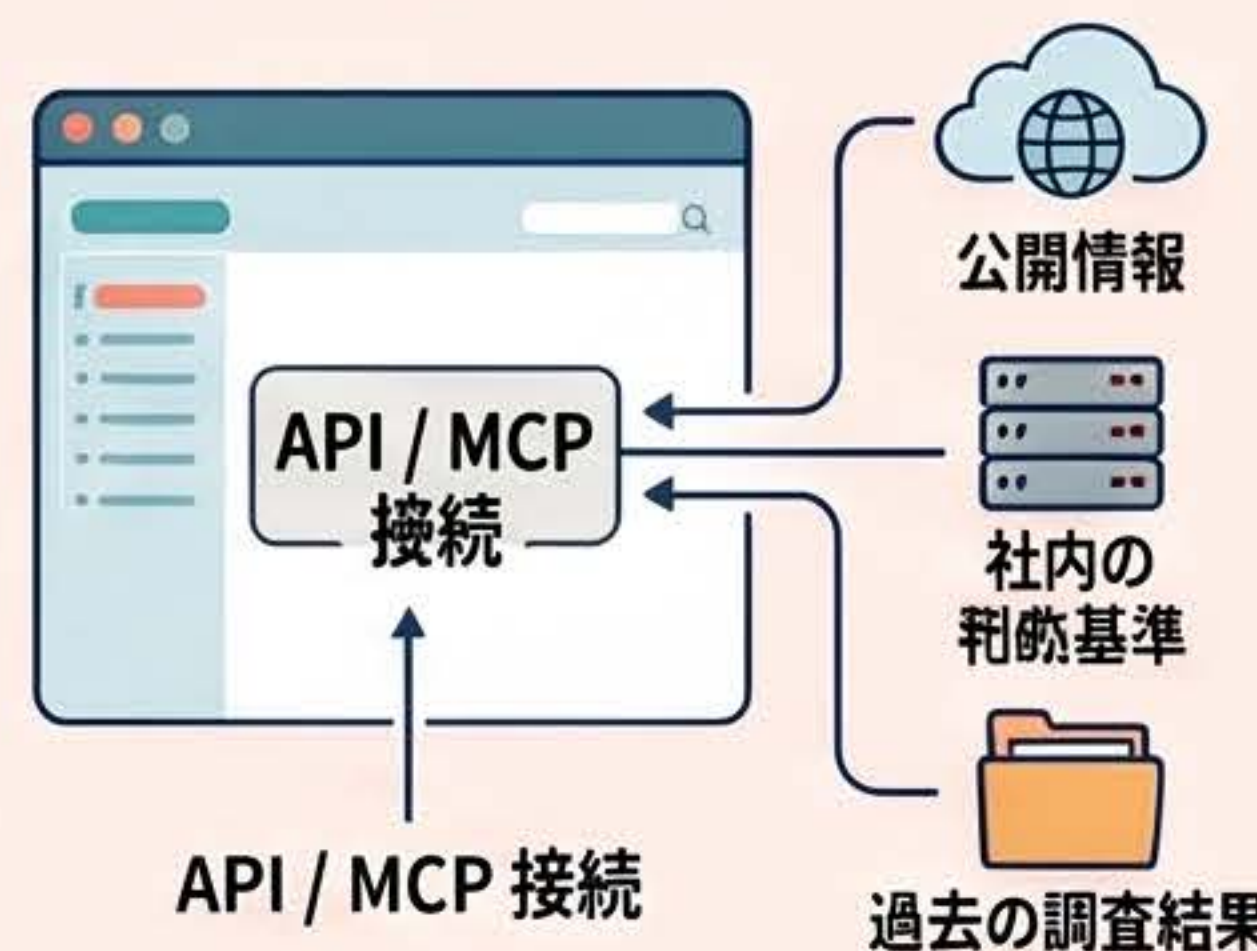


権利行使

知財業務全般への
AI浸透と自社データ連携



「自社専用AI環境」と
「社内データ連携」



APIやMCP接続により、公開情報だけでなく
社内の判断基準や過去の調査結果をAIに組
み込む展示が目立つ。

2026年、AIは単なる流行から知財実務の全工程を支える基盤へ。
社内データ連携と、知財活動を経営指標（ROIC等）に結びつける
実装が焦点に。

効率化の先にある
「事業価値」と「経営接続」



最大50～70%の工数削減と、
生まれた時間の再配分



従来の業務

事業構想・提案へのシフト

業務フローの刷新により大幅な効率化を実現し、
知財部門の役割を事業構想や提案へシフト。



デジタルと物理の両面を
カバーするブランド保護



ECサイトの監視（AI）から現物の真贋判定
（スマホ活用）まで、保護領域が一体化。

知財投資を経営指標
（ROIC）で可視化



知財分析 → 投資判断・収益化

知財分析を投資判断や収益化に繋げ、事業へ
の貢献を数値で説明する具体的な機能が登場。

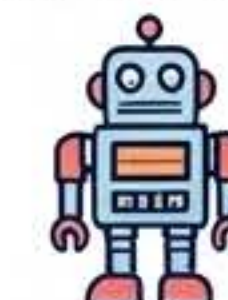
企業事例に見る工数削減効果

ワコールHD



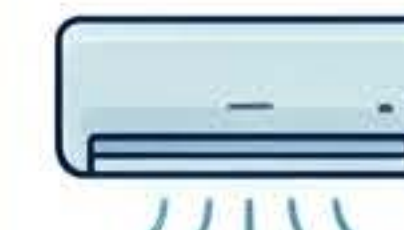
商標調査工数を
最大70%削減
IPオアシス

タカラトミー



業務フロー改革で
工数約50%削減
IPオアシス

ダイキン工業



商標調査の
目視負担を軽減
IP-RoBo(TM-RoBo)